

高め合おう『授業力』！ 磨き合おう『教師力』！

－教師が「学び」を実感できる校内研修を目指して－

栃木県総合教育センター 平成20年3月

先生方は、子どもの学力を高めたいと願い、常に自分の授業を振り返り、子どもにとって分かりやすい授業を行うために努力をしています。よりよい授業を行うためには、自分自身での振り返りとともに、先生方どうしの学び合いがとても有効です。

日頃から、先生方と授業を見せ合えれば、授業のよい振り返りができて、お互いの授業力アップに役立つと思うのだけれど・・・。



子どもや授業について語り合うのは楽しいな。でも、もっと多くの先生方と語り合えたら、いろいろ学べると思うのだけれど・・・。



研究授業について、多くの意見をもらえるのはうれしいけれど、できれば、授業構想のときからアドバイスをもらえたらよかったな・・・。



教師が「学び」を実感できる校内研修の実践が、このような悩みの解決につながります！



今、授業研究を中心とする校内研修が見直されています。校内研修を活性化すれば、教師一人一人の授業力の向上や、教師集団としての意識の高揚など、様々な成果が期待できます。

「学ぶことは楽しいこと」
「自分が成長することはうれしいこと」
だと実感できる校内研修

授業研究を中心とする校内研修の意義

平成19年度、栃木県総合教育センターでは、県内公立小・中学校4校の協力を得て、授業研究を中心とする校内研修の在り方について研究を進めてきました。

<研究協力校の先生方の声>

他の先生の授業を子どもの目線で見ること、自分の授業の振り返りに役立ちました。

意見交換を通して、お互いを尊重できるようになり、集団としての意識が高まりました。

教師の授業への熱意や取組が、子どもに響くことを実感しました。



小学校



中学校

授業についての話し合いを重ねることで、授業力がつくとともに、教科や学年の壁がなくなりました。

研究協力校の先生方を対象に実施したアンケートには、授業研究を中心とする校内研修が、授業改善や授業力向上につながり、先生方どうしの人間関係にもよい影響を及ぼしているという意見や、先生方が互いに学ぼうとする意欲や姿勢は、子どもの学ぶ姿勢にもよい影響を与えているという意見などが、多数寄せられました。

みなさんの学校でも、校内研修の見直しを図ってみませんか。



授業研究を中心とする校内研修の意義

☆ 授業力を高める

- 研究授業や授業研究会を通して、よりよい授業へのヒントを得ることができます。
- 他の先生の授業を見ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができます。
- 他の先生に授業を見てもらうことで、新たな気づきを得ることができます。

☆ 同僚性を高める

- 教師間のコミュニケーションが円滑になり、よりよい人間関係を築くことができます。
- 課題の共有化を図り、その解決に向けて協働して取り組めるようになります。
- 教師集団としての意識が高まり、学校の活性化につながります。

校内研修の実施にあたって心がけること

ここで、研究授業や授業研究会をより効果的なものにするための大切なポイントを確認しましょう。



校内研修の効果を高めるためには、まず、自校の子どもたちにどのような力を付けさせたいか（めざす子ども像）、また、子どもたちに力を付けさせるためにはどのような授業を展開していくか（めざす授業像）についてよく話し合い、先生方の「思い」や「願い」を共有することが大切です。

先生方の「思い」や「願い」

めざす子ども像

めざす授業像

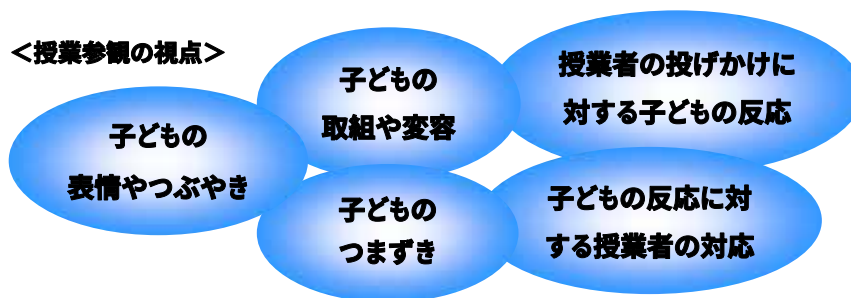
学習指導案の作成を通して

- 学年や学年ブロック、あるいは同じ教科の教師どうして学習指導案の検討会をもつことで、授業者の「思い」や「願い」を他の教師も共有することができます。また、様々な視点を生かした授業の構想ができ、お互いの授業力の向上につながります。

研究授業にあたって

- 授業参観の視点を明確にするために、授業者は自分の「思い」や「願い」、授業のねらいなどを事前に参観者に示します。
- 参観者は、授業者と共有したポイントを念頭に置き、次のような視点で子どもの姿を見取ります。

<授業参観の視点>



授業研究会にあたって

- 授業で見取った子どもの姿から、「この場面での発問はよかったか」「あの場面の対応はどうだったか」「この場面での支援は十分だったか」などと、対話を通して具体的に振り返ることで、授業者の「思い」や「願い」をかなえるための手だてを共に考えていきます。
- 授業で見取った子どもの姿を中心に授業を振り返るようにすると、教科の専門性にとらわれずに意見が言えるようになります。

授業研究会での「教師の学び」とは、「子どもの姿を通して授業を振り返ること」、「振り返りから気付くこと」、「気付いたことから、自分ができることを考えること」です。

では、どうすれば「学び」のある授業研究会になるのでしょうか。ある授業とその後の授業研究会を具体例にして、説明しましょう。

＜図工の研究授業でのワンシーン＞

児童が自分の想像力を働かせて、空想の絵を描く題材の授業です。授業者は、色に対するイメージを広げるため、児童に質問していました。

授業者：先生を見てください。先生が右手に持っている画用紙は、だいたい色と赤色で、左手に持っている画用紙は、緑色と青色で塗ってあります。この2枚の画用紙を見て、暖かさを感じるのは、どちらの画用紙の色ですか。

児童A：だいたい色と赤色！

授業者：そうですね。だいたい色や赤は、暖かさを感じますね。

児童B：え～、僕は左側！暖かく感じるのは、緑色だよ。

授業者：そうなの？でも、だいたい色や赤色が、人に暖かさを感じさせる色なのです。覚えておいてくださいね。それでは、次に・・・

授業者の指導を中心に協議する授業研究会

教師A：先生が質問されたとき、児童Bが緑色って、言いましたよね。先生は、あの意見を取り上げませんでした。なぜですか。

授業者：だって、緑色に暖かさを感じますか。あの意見を取り上げたら、授業が横道にそれてしまうと思ったんです。よくあるんです、そういうことが。

教師B：それなら、わざわざ子どもたちに質問する必要はないでしょう。はじめから、先生が説明してしまえばいいことですよね。

授業者：・・・

このような協議では、授業者、参会者ともに、新たな「気付き」を得ることは難しいと思われます。

子どもの姿を中心に協議する授業研究会

教師A：先生が質問されたとき、児童Bが緑色って、言いましたよね。児童Bは、どうして緑色と言ったのでしょうか。

授業者：私にもわかりません。でも、児童Bは、授業中よくあいうことを言い出すんです。

教師B：私、授業が終わった後、児童Bに、なぜ緑色と答えたのか聞いてみたんです。彼は、緑色から、木の葉っぱと木々に葉がつき始める春を連想したのだそうです。

授業者：えっ、そうだったのですか。それじゃ、あのとき、私が児童Bの意見をきちんと聞いてあげれば、他の子どもたちからもいろいろな意見が出て、色のイメージをもっとふくらませることができたかもしれないですね。

教師B：そうですね。子どもの発想というのは、素晴らしいものですね。

このような協議なら、授業者と参会者がともに「気付き」を得て、各々の授業に生かすことができます。

上記の二つの例から分かるように、見取る場面は同じでも、子どもの姿を見取り、見取った事実を協議に生かすことによって、学びのある授業研究会になるのです。



研究協力校の取組

市貝町立赤羽小学校

ここで、校内研修の活性化の参考となる、研究協力校の様々な取組を紹介しましょう。

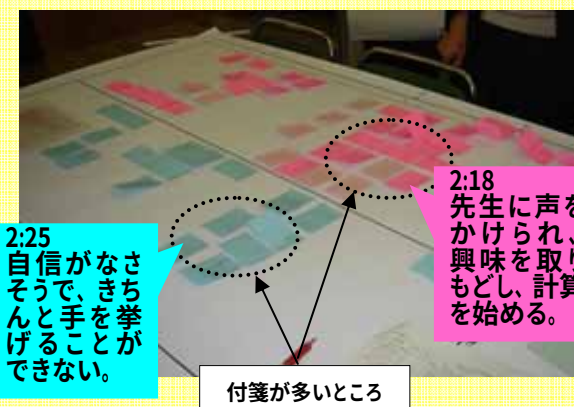


- 学習指導案検討会やプレ授業を行うなど、研究授業の実施までの過程を大切にすることで、授業者やその他の教師の授業力向上を図っています。
- 意見交換が活発になるよう、付箋を用いた「ワークショップ型授業研究会」を行い、互いに学び合える授業研究会にしています。



少人数による学習指導案検討会を行い、授業者の構想を基に、授業者の「思い」や「願い」を生かしながら学習指導案を作成します。作成した学習指導案に基づいてプレ授業を実施し、課題の改善を図ります。そうすることで、授業者だけでなく、その他の教師の授業力向上にも役立ちます。

参観者は、2色（ピンクとブルーなど）の付箋を持って、観察します。子どもの表情などが見える位置に立ち、ピンクの付箋には「学びが成立している点」を、ブルーの付箋には「気になる点」をメモします。その際、1枚の付箋には、一つの事柄のみ書きます。



ワークショップ型授業研究会を取り入れ、模造紙に付箋を時系列に貼っていきます。付箋が多いところに注目して、話し合います。予め付箋に自分の意見を書いているので、全員が主体的に話し合いに参加することができ、活発な協議が展開されます。

コラム

付箋を用いる「ワークショップ型授業研究会」には、次のような特徴があり、話し合いを活発化する有効な手立てとなります。

- ①参加者全員の意見が反映される。
- ②様々な視点から授業をとらえられる。
- ③事前に付箋に意見を書いているため、発言しやすい。
- ④話し合いの「足跡」を残すことができる。

- 一人一人の発言機会を増やすために、授業研究会を少人数(学年ブロックごと)で行い、模擬授業も取り入れ、より学びのある授業研究会にしています。
- 授業力向上を目的とした「マイ・チャレンジ教室」を実施し、日常的に授業を見せ合い、授業改善を図っています。

授業研究会で模擬授業を行い、課題と思われた点について具体的に振り返ることで、授業改善に役立てています。また、先生どうしの人間関係ができていたり、学年の子どもの状況が分かっていること、また少人数であるというよさを生かし、授業研究会を学年ブロックごとに行うことで、活発な意見交換となります。



授業研究の日常化を図るため、自主的に授業を公開し、互いの学び合いの場とする「マイ・チャレンジ教室」を実施しています。「マイ・チャレンジ教室」の実施にあたって、授業者は事前に他の先生方に授業の見所を知らせておき、その場面を中心に参観してもらうようにします。

「マイ・チャレンジ教室」の授業についての勉強会は、授業を参観した先生方が、放課後、自主的に集まって行われます。そこでは、授業の見所について焦点を絞って話し合いをするので、短時間でも実のある協議ができます。先生方が授業改善への意欲をもち、無理をせずに取り組むことが、「マイ・チャレンジ教室」継続の秘訣です。



- 研究授業の準備が負担になりすぎないように、学習指導案は簡略化（A4判1枚程度）したものを作成し、授業に力を注いでいます。
- 授業評価の一環として、参観者が気付いたことなどを記入して授業者へ渡す「感想票」を活用し、授業改善に役立てています。

教科担当が一人という教科が多いので、学習指導案検討会を複数回開き、全員で授業を構想していきます。その際、他教科の先生は生徒の視点から意見を述べるなどして、主体的に関わります。また、学習指導案はA4判1枚程度の簡略化したものとし、作成が負担になりすぎないようにします。

授業研究会は、付箋を用いるワークショップ型で行い、授業中に見取った「子どもの姿」を中心に話し合います。そうすることで、専門教科以外の授業であっても、全員が話し合いに参加でき、各自が様々な気付きを得て、各教科の授業に生かすことができます。



教師間の授業評価の一環として、「感想票」を活用しています。各参観者が、授業を参観して気付いた、参考になる点や疑問点を、「感想票」に記入して授業者に渡します。「感想票」は、授業研究会と同じように、授業者にとって授業の振り返りになるとともに、励みにもなります。

ノートに答えがしっかり書けているのに挙手できない生徒がいました。そのような生徒が挙手できるようになるよう、どのような指導をしていったらよいのか、共に考えていきたいですね。

このコメントには、校内研修で培われる「同僚性」が表れています。

- 授業研究会の班別協議が学びの多いものとなるよう、授業ごとに「学年別編成」、「ランダム編成」、「キャリア別編成」とするなど、班編成の仕方を工夫しています。
- 年間を通して同一の外部講師を招聘することで、学校の状況を踏まえた指導・助言を得られるようにし、授業力の向上を図っています。

学年担当の先生の協力を得て作成した学習指導案を基に、研究授業を行います。その際、授業者は事前に参観のポイントを示し、授業を見る視点を明確にします。そうすることで、授業研究会では焦点を絞った協議ができます。



生徒の状況が分かっている先生どうしの「学年別編成」、様々な先生から構成される「ランダム編成」、教職経験年数に基づく「キャリア別編成」など、班編成の仕方を工夫することで、意見を言いやすくしたり、様々な意見にふれる機会を増やしたりして、多くの学びを得ることができます。

協議のトピックを書いた色別の紙を黒板に張ることで、トピックを意識して焦点化した話し合いを行います。また、専門的な立場から指導・助言をもらうため、外部講師を招聘し、新たに得られる気づきを、それぞれの授業に生かします。



栃木県総合教育センターでは、これまでに、校内研修や授業評価に関する参考資料として次の冊子を発行しました。
 ○平成18年度「子どもと共につくるよりよい授業を目指して」(小・中) ○平成19年度「校内研修を通じた授業改善を目指して」(高)
 両冊子では、ワークショップ型授業研究会をはじめとして、学校種にかかわらず参考となる多くの事例を紹介しています。いずれも、当センターホームページ (<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>) からダウンロードできますので、本リーフレットとともにご活用ください。また、校内研修の実施に際して、当センター指導主事の派遣が可能ですので、お問い合わせください。